

青森県経済統計報告

平成 26 年 11 月 4 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 26 年 10 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,321,895 人（対前月 566 人減少）
自然動態	603 人減少（出生者数 831 人、死亡者数 1,434 人）
社会動態	37 人増加（転入者数 1,528 人、転出者数 1,491 人）

2 本県の経済動向（平成 26 年 8 月・9 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、弱めの動きもみられるものの、緩やかな持ち直しの動きが続いている。
青森県景気ウォッチャー調査結果によると、先行きについては、消費税増税の影響のほか、物価
上昇や燃料費負担が懸念されることから、横ばいを示す 50 を下回った。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向
 - ・平成 26 年 8 月の**青森県鉱工業生産指数**（平成 22 年=100）は、季節調整済指数が 99.5 で、前月比 11.6% の低下となり、2 カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 98.8 で、前年同月比 8.8% の低下となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
 - ・平成 26 年 9 月の**大口電力使用量**は 1 億 9,928 万 kWh で、前年同月比 10.8% 減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用労働
 - ・平成 26 年 8 月の**定期給与**は 214,613 円で前年同月比 2.3% 減となった。**総実労働時間**は 151.4 時間で前年同月比 2.4% 減、**所定外労働時間**は 9.0 時間で前年同月比 2.2% 減となった。
 - ・平成 26 年 9 月の**有効求人倍率**（季節調整値）は 0.79 倍で、前月と同水準となった。また、**新規求人倍率**（季節調整値）は 1.08 倍で、前月を 0.02 ポイント下回った。
 - ・**雇用保険受給者実人数**は 7,288 人で、前年前月比 6.6% の低下となった。
- (2-3) 物 価
 - 平成 26 年 9 月の**青森市消費者物価指数**（平成 22 年=100）は、総合指数が 104.0 となり、前月比 0.2% の上昇、前年同月比 3.6% の上昇となった。
- (2-4) 個人消費
 - ・平成 26 年 9 月の**大型小売店販売額**は、全店舗ベースが 135 億円で前年同月比 2.5% 減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比 3.5% 減となり、6 カ月連続で前年同月を下回った。
 - ・平成 26 年 9 月の軽自動車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は 4,627 台で、前年同月 2.8% 増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。
 - ・平成 26 年 9 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が前年同月比 7.6% 増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設では 1.4% 減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設
 - ・平成 26 年 9 月の**新設住宅着工戸数**は 550 戸で、前年同月比 17.7% 減となり、5 カ月連続で前年同月を下回った。
 - ・平成 26 年 9 月の**公共工事請負額**は 224 億 1,500 万円で前年同月比 8.0% 減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。また、累計請負金額は 1,147 億 2,600 万円で前年同月比 17.8% 減となり、7 カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産
 - 平成 26 年 9 月の**企業倒産**は、件数は 6 件で前年同月比 100% 増となった。負債総額は 4 億 3,500 万円で前年同月比 3.6% 増となった。

（3）景気動向指数 C I（平成 26 年 8 月分）…………… 9

先行指数	92.3（前月を 4.1 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した）
一致指数	117.8（前月を 3.0 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した）
遅行指数	120.5（前月を 2.1 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 26 年 10 月期）…………… 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断 D I	…43.9（前期比 1.8 ポイント減、3 期連続で 50 を下回る）
3 カ月後の景気の先行き判断 D I	…43.7（前期比 8.3 ポイント減、2 期ぶりに 50 を下回る）

1 青森県の推計人口（平成26年10月1日現在）

【概況】

平成26年10月1日現在の本県推計人口は、1,321,895人で、前月に比べ566人の減少となった。

○自然動態

出生者数が831人、死亡者数が1,434人で、603人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,528人、転出者数が1,491人で、37人の増加となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数			対前月 増減率	増減数	自然 増減数			社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
24.10.1	1,349,969	634,196	715,773	-0.041%	-554	-445	736	1,181	-109	1,382	1,491
25.10.1	1,336,206	627,579	708,627	-0.034%	-458	-523	750	1,273	65	1,563	1,498
25.11.1	1,335,656	627,359	708,297	-0.041%	-550	-526	889	1,415	-24	1,527	1,551
25.12.1	1,334,803	626,931	707,872	-0.064%	-853	-713	732	1,445	-140	1,066	1,206
26.1.1	1,333,729	626,454	707,275	-0.080%	-1,074	-756	738	1,494	-318	919	1,237
26.2.1	1,332,587	625,865	706,722	-0.086%	-1,142	-1,010	774	1,784	-132	1,042	1,174
26.3.1	1,331,624	625,397	706,227	-0.072%	-963	-699	657	1,356	-264	1,028	1,292
26.4.1	1,325,767	622,271	703,496	-0.440%	-5,857	-730	745	1,475	-5,127	3,923	9,050
26.5.1	1,325,297	622,167	703,130	-0.035%	-470	-714	711	1,425	244	3,608	3,364
26.6.1	1,324,485	621,682	702,803	-0.061%	-812	-552	775	1,327	-260	1,252	1,512
26.7.1	1,323,719	621,258	702,461	-0.058%	-766	-572	711	1,283	-194	1,247	1,441
26.8.1	1,323,182	621,004	702,178	-0.041%	-537	-456	840	1,296	-81	1,584	1,665
26.9.1	1,322,461	620,733	701,728	-0.054%	-721	-532	749	1,281	-189	1,669	1,858
26.10.1	1,321,895	620,565	701,330	-0.042%	-566	-603	831	1,434	37	1,528	1,491

9月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月	平16.9	17.9	18.9	19.9	20.9	21.9	22.9	23.9	24.9	25.9	26.9	
自然動態	出生者数	986	942	940	765	905	807	810	781	736	750	831
	死亡者数	1,106	1,091	1,086	1,042	1,167	1,219	1,297	1,224	1,181	1,273	1,434
	自然増減数	-120	-149	-146	-277	-262	-412	-487	-443	-445	-523	-603
社会動態	県外からの 転入者数	1,618	1,738	1,590	1,710	1,688	1,538	1,571	1,474	1,382	1,563	1,528
	県外への 転出者数	2,012	2,131	1,872	2,020	1,828	1,678	1,493	1,584	1,491	1,498	1,491
	社会増減数	-394	-393	-282	-310	-140	-140	78	-110	-109	65	37
増減数計	-514	-542	-428	-587	-402	-552	-409	-553	-554	-458	-566	

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成22年11月以降の人口は平成22年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

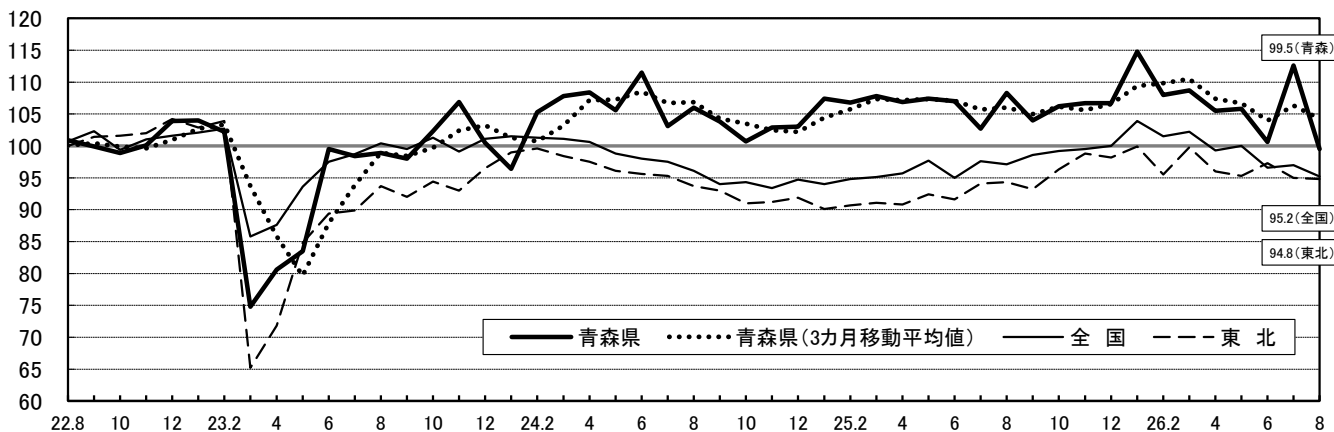
(2-1-1) 製造業の生産

平成26年8月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が99.5で、前月比11.6%の低下となり、2カ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は98.8で、前年同月比8.8%の低下となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、輸送機械工業、電気機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、食料品工業、金属製品工業などが低下し、鉱工業全体では11.6%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移 (季節調整済指数)

(平成22年=100)

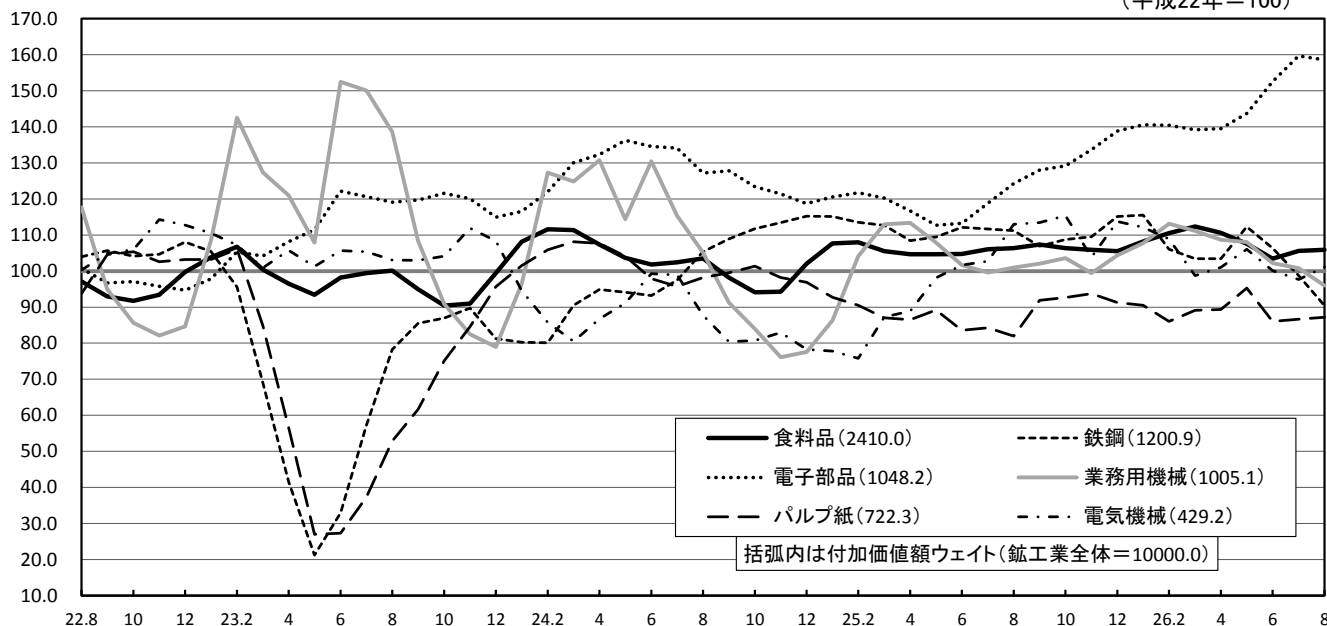


◎業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 -11.6%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
輸送機械工業	42.5	9.4	化学工業	-76.5	-57.0
電気機械工業	15.2	6.1	食料品工業	-8.7	-22.5
パルプ・紙・紙加工品工業	5.0	3.2	金属製品工業	-30.1	-15.3
家具工業	55.6	2.4	業務用機械工業	-12.7	-12.5
非鉄金属工業	5.8	1.9	電子部品・デバイス工業	-7.1	-11.1

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

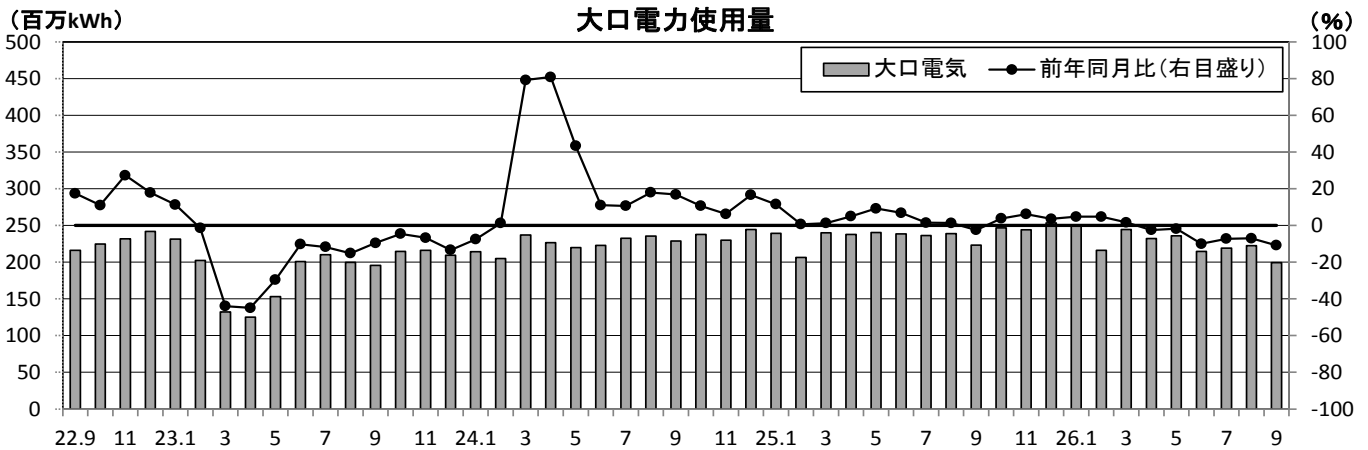
(平成22年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-1-2) 電力使用量

平成26年9月の大口電力使用量は1億9,928万kWhで、前年同月比10.8%減となり、6カ月連続で前年同月を下回った。製造業、鉱業、公益事業で減少したことによる。



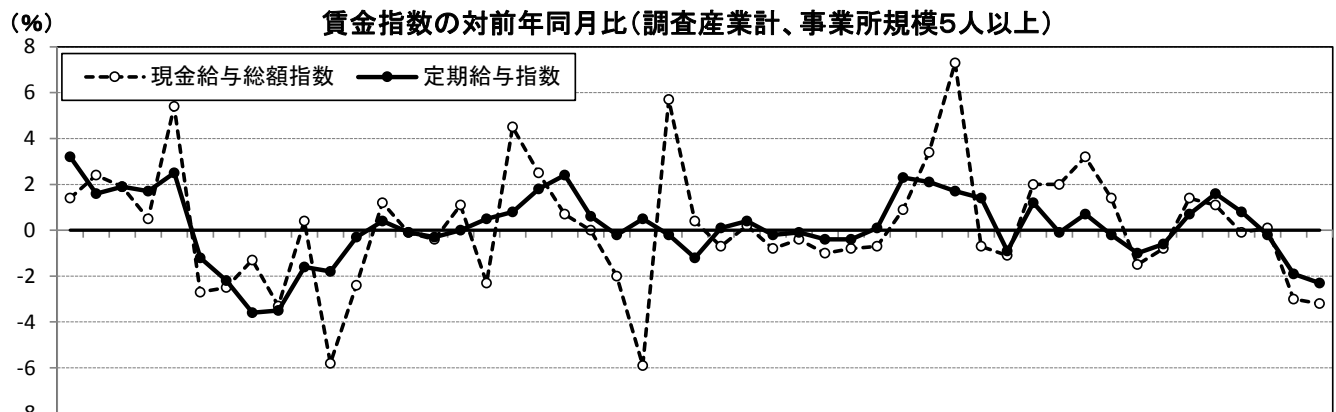
資料:東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間 (毎月勤労統計調査結果)

平成26年8月の定期給与は214,613円で定期給与指数(平成22年=100)では97.5となり、前年同月比2.3%減と3カ月連続の減(現金給与総額225,120円、現金給与総額指数87.3、前年同月比3.2%減と2カ月連続の減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は82.6となった。

総実労働時間は151.4時間で、総実労働時間指数は97.9となり、前年同月比2.4%減と10カ月ぶりの減となった。このうち、所定外労働時間は9.0時間で、所定外労働時間指数は98.9となり、前年同月比2.2%減と6カ月ぶりの減となった。



資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H22=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	225,120 円	273,569 円	87.3	86.4	-3.2 %	0.9 %
定期給与	214,613 円	259,938 円	97.5	98.9	-2.3 %	0.3 %
特別給与	10,507 円	13,631 円	—	—	—	13.4 %
総実労働時間	151.4 時間	141.2 時間	97.9	96.3	-2.4 %	-1.6 %
所定内労働時間	142.4 時間	130.8 時間	97.9	95.9	-2.3 %	-1.8 %
所定外労働時間	9.0 時間	10.4 時間	97.0	102.0	-2.2 %	1.0 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

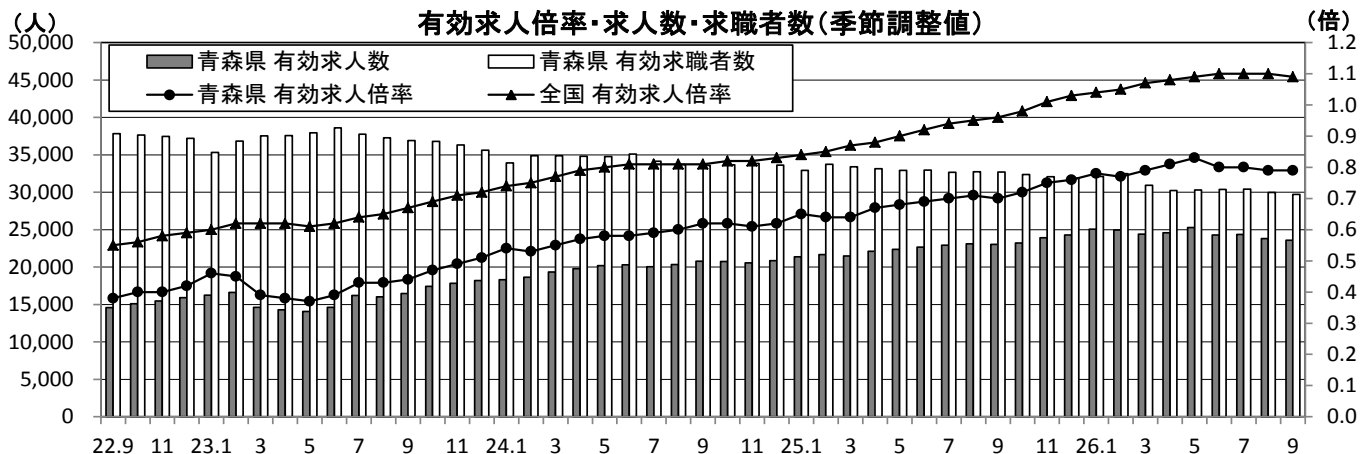
2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしている。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

(2-2-2) 有効求人倍率

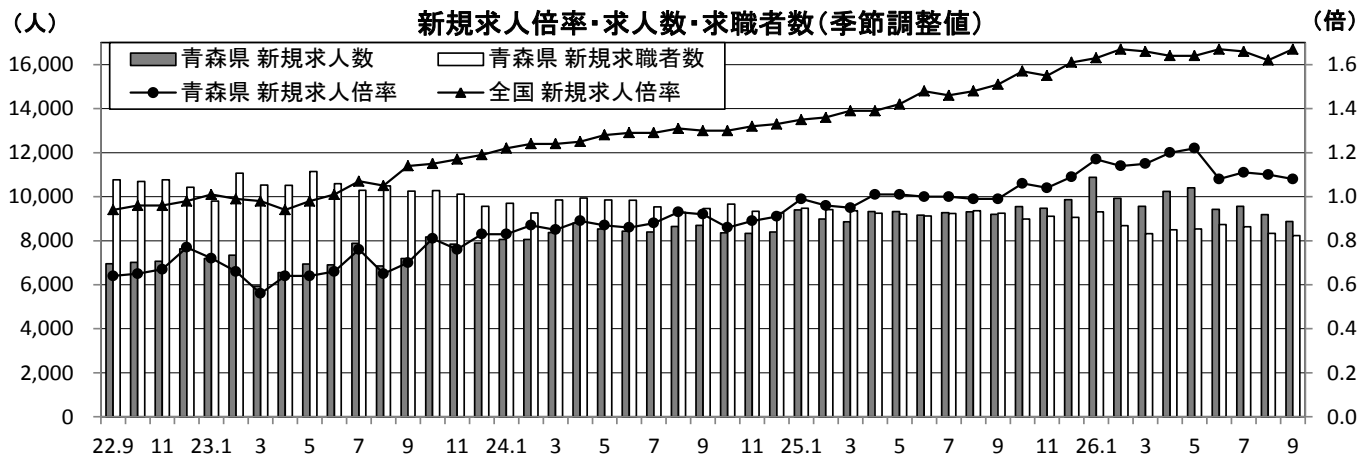
平成26年9月の有効求人倍率（季節調整値）は0.79倍で、前月と同水準となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-2-3) 新規求人倍率

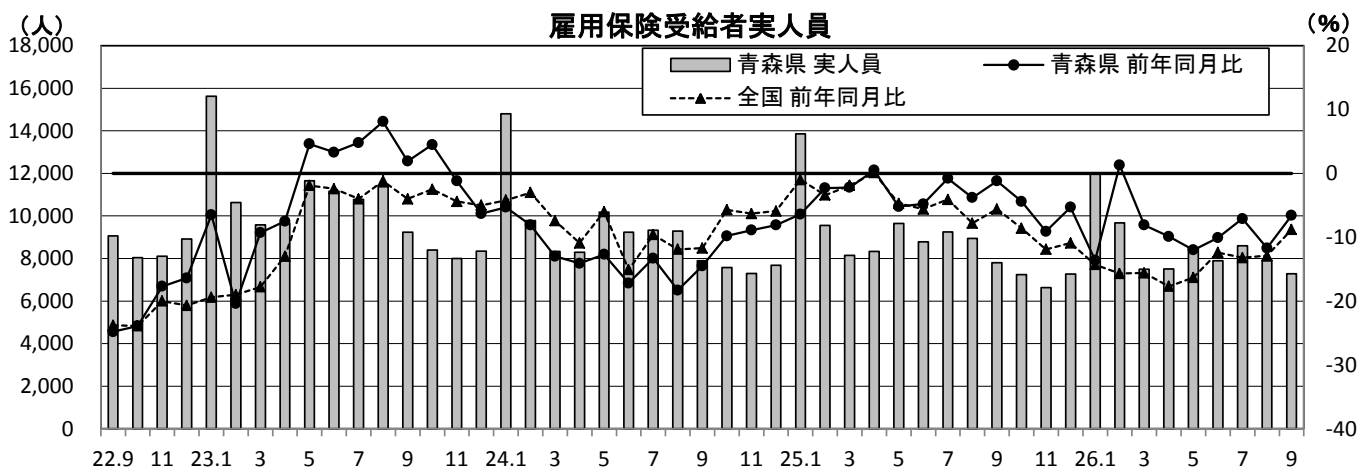
平成26年9月の新規求人倍率（季節調整値）は1.08倍で、前月を0.02ポイント下回った。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-2-4) 雇用保険受給者数

平成26年9月の雇用保険受給者実人数は7,288人で、前年同月比6.6%の低下となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省「雇用保険事業月報」

(2-3) 物価

平成26年9月の青森市消費者物価指数(平成22年=100)は、総合指数が104.0となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ3.6%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は103.2となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ3.1%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は100.1となり、前月と同水準、前年同月と比べ2.6%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ3.6%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、教養娯楽などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

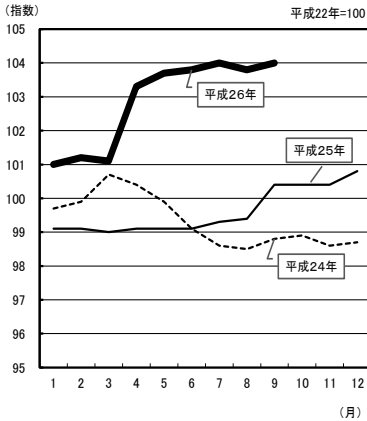


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

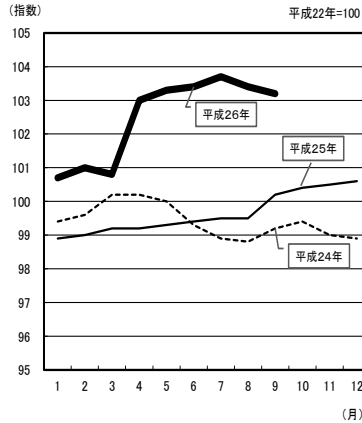
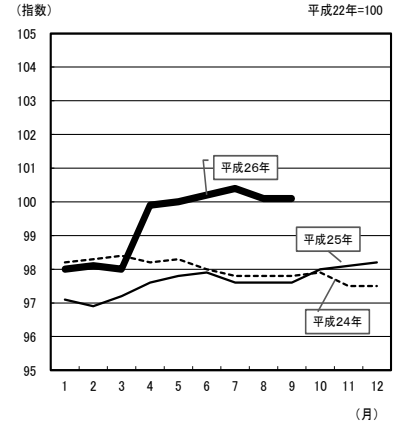


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成22年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家 賃を除く 総合	食料(酒類 を除く)及 びエネル ギーを除く 総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事用 品	被服 及び履 物	服 物	保 険	健 康	交通・ 信 息	教 育	教 娯 楽	養 老	諸 雑 費
当月指数	104.0	103.2	105.1	100.1	104.8	121.0	99.2	121.6	88.8	104.2	98.6	106.0	100.0	97.9	108.9			
前月比 (%)	0.2	▲0.2	0.2	0.0	1.3	7.4	0.2	▲0.8	0.1	1.5	▲0.3	▲0.9	0.0	▲0.5	0.4			
寄与度	—	▲0.16	0.19	0.01	0.36	0.35	0.03	▲0.09	0.00	0.05	▲0.01	▲0.13	0.00	▲0.05	0.03			
前年 同月比 (%)	3.6	3.1	4.2	2.6	6.1	15.0	1.1	3.9	0.3	2.6	0.9	1.6	3.3	7.0	4.7			
寄与度	—	2.93	3.55	1.62	1.58	0.68	0.21	0.45	0.01	0.10	0.04	0.21	0.08	0.64	0.29			

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

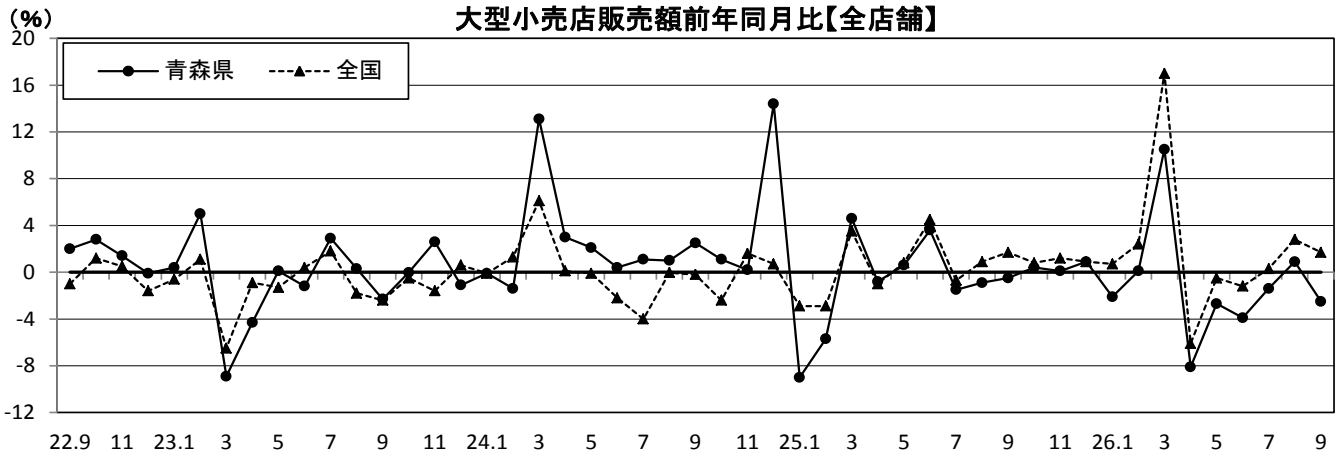
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

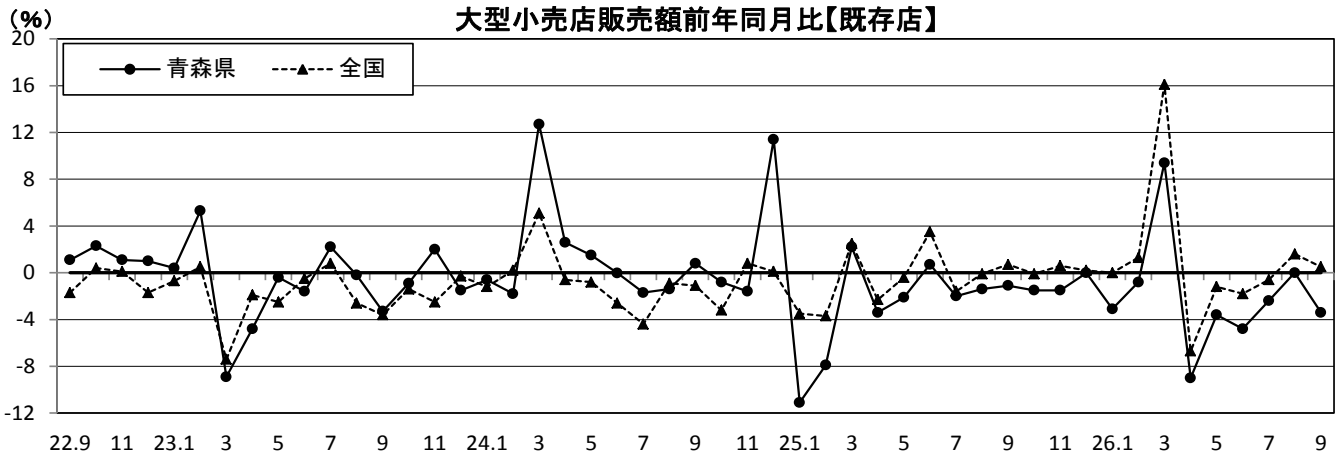
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 大型小売店販売額

平成26年9月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが135億円で前年同月比2.5%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.5%減となり、6カ月連続で前年同月を下回った。百貨店で増加、スーパーで減少したことによる。



資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

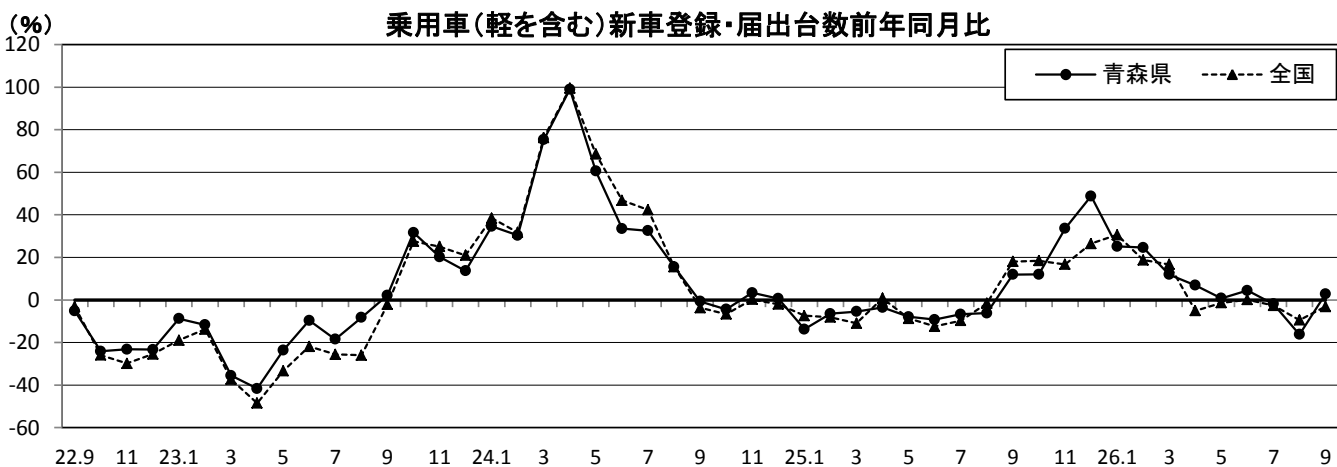


資料: 東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」、経済産業省「商業販売統計速報」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

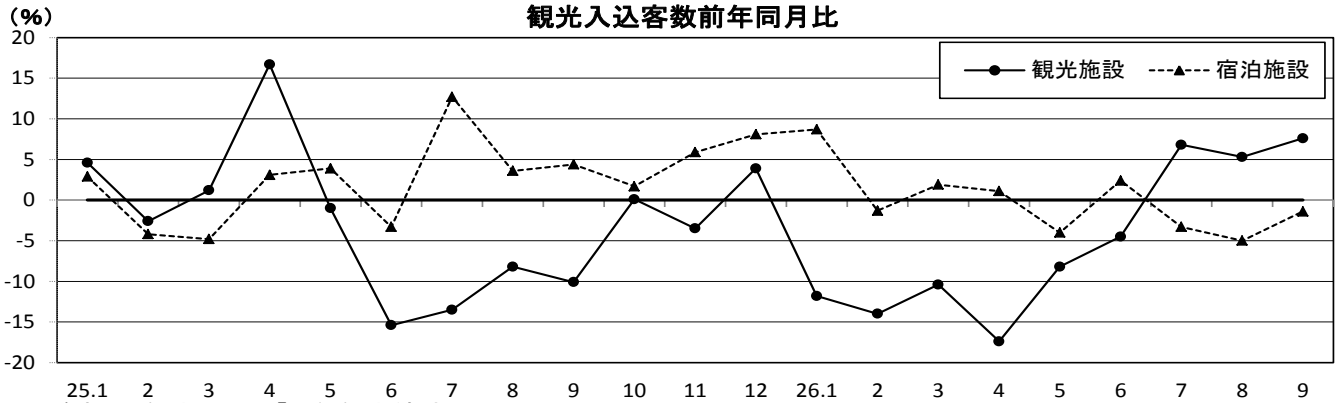
平成26年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,627台で、前年同月比2.8%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。普通車で増加したことによる。



資料: 青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-4-3) 観光入込客数

平成26年9月の観光入込客数は、主な観光施設が前年同月比7.6%増となり、3カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設は1.4%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。観光施設は八戸市、青森市などの施設で増加し、宿泊施設は八戸市、むつ市などの施設で減少したことによる。



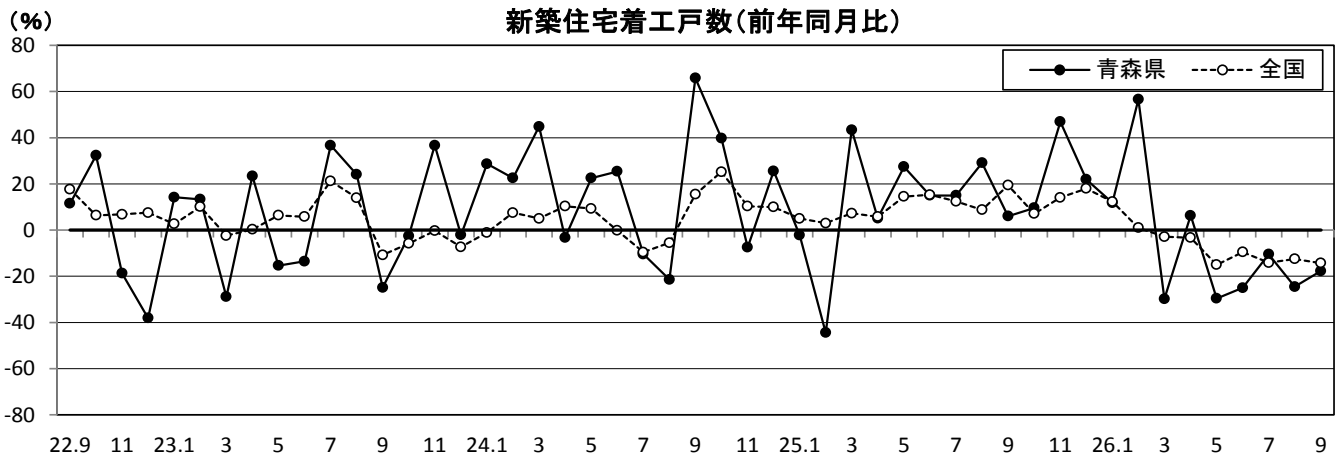
資料：県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設(H25年は36施設対比)、宿泊施設59施設(H25年1月～3月は58施設・H25年4～11月は61施設・H25年12月～H26年3月は57施設対比)

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

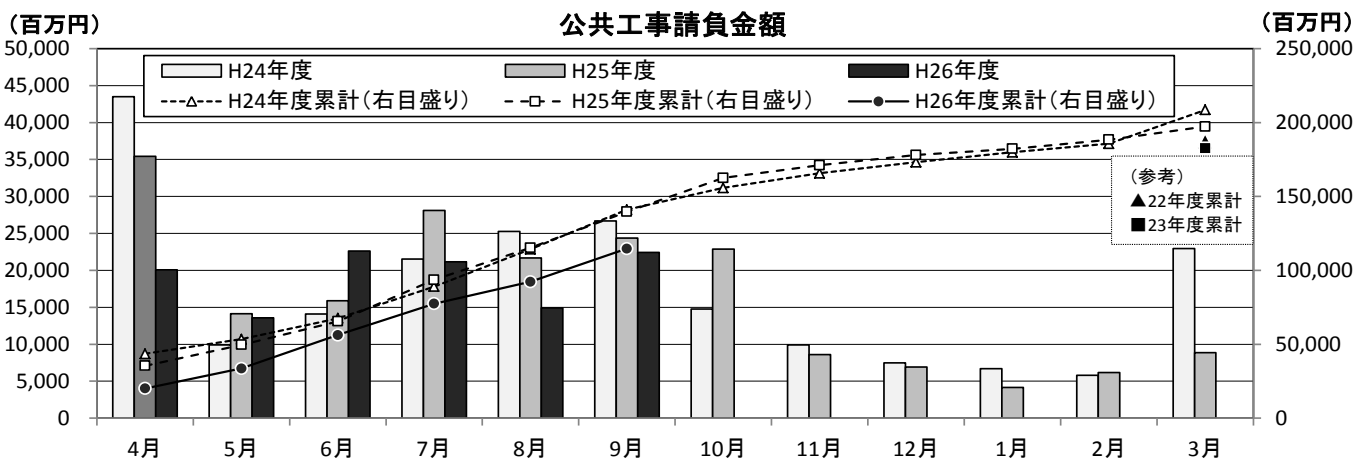
平成26年9月の新設住宅着工戸数は550戸で、前年同月比17.7%減となり5カ月連続で前年同月を下回った。持家、貸家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-5-2) 公共事業

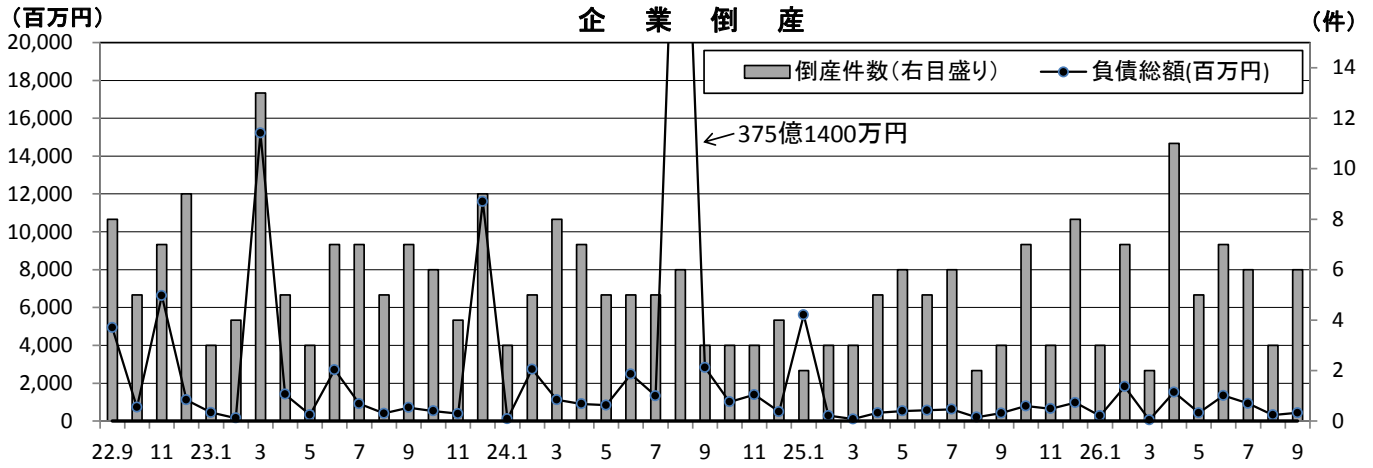
平成26年9月の公共工事請負金額は224億1,500万円で前年同月比8.0%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。また、累計請負金額は1,147億2,600万円で前年同月比17.8%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。



資料：東日本建設業保証(株)青森支店「青森県内の公共工事の動向」

(2-6) 企業倒産

平成26年9月の企業倒産は、件数は6件で前年同月比100.0%増となった。負債総額は4億3,500万円
で前年同月比3.6%増となった。



(3) 青森県景気動向指数

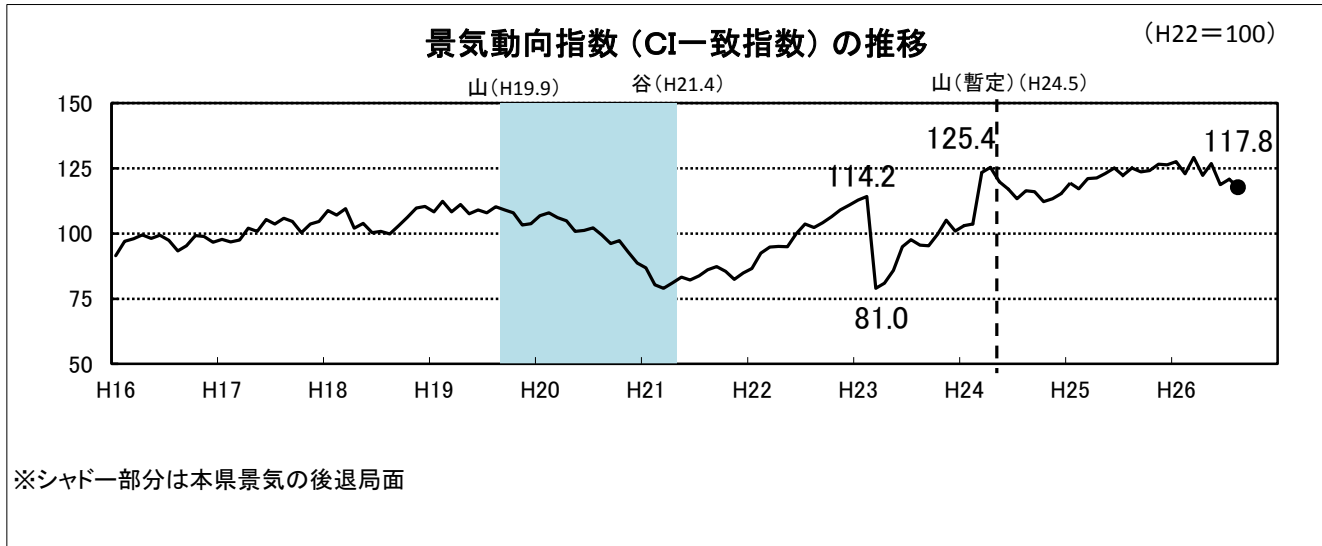
平成26年8月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数 92.3、一致指数 117.8、遅行指数 120.5 となった。

先行指数は、前月を 4.1 ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 3.0 ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 2.1 ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した。

8月の一致指数は、生産・雇用関連等の指標がマイナスになったことから、下降した。



● 個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています)

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
建築着工床面積	1.95	2カ月連続	乗用車新車登録届出台数	-3.07	2カ月連続
中小企業景況DI	1.23	2カ月連続	企業倒産件数	-1.86	2カ月ぶり
			新規求人倍率(全数)	-1.04	2カ月ぶり
			生産財生産指数	-1.02	3カ月連続
			新設住宅着工床面積	-0.33	3カ月ぶり
			所定外労働時間指数(全産業)	-0.09	4カ月連続
一致系列					
大型小売店販売額(既存店)	0.86	2カ月連続	鉱工業生産指数	-2.77	2カ月ぶり
大口電力使用量	0.64	2カ月連続	有効求人倍率(全数)	-1.25	3カ月連続
輸入通関実績(八戸港)	0.25	2カ月ぶり	旅行取扱高	-0.56	3カ月連続
			東北自動車道IC利用台数	-0.19	2カ月ぶり
遅行系列					
家計消費支出(勤労者世帯:実質)	1.75	3カ月ぶり	青森市消費者物価指数(総合)	-1.00	3カ月連続
りんご消費地市場価格	0.83	2カ月連続	県内金融機関貸出残高	-0.25	5カ月ぶり
常用雇用指数(全産業)	0.40	2カ月連続	公共工事請負金額	-0.20	2カ月連続
現金給与総額(全産業)	0.36	2カ月連続			

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(参考) 青森県景気動向指数(DI)

先行指数	37.5%	(6カ月連続で50%を下回った)
一致指数	21.4%	(2カ月ぶりに50%を下回った)
遅行指数	71.4%	(7カ月連続で50%を上回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成26年10月期）

現状判断DIは、消費税増税による影響等により、前期比1.8ポイント減少の43.9となった。

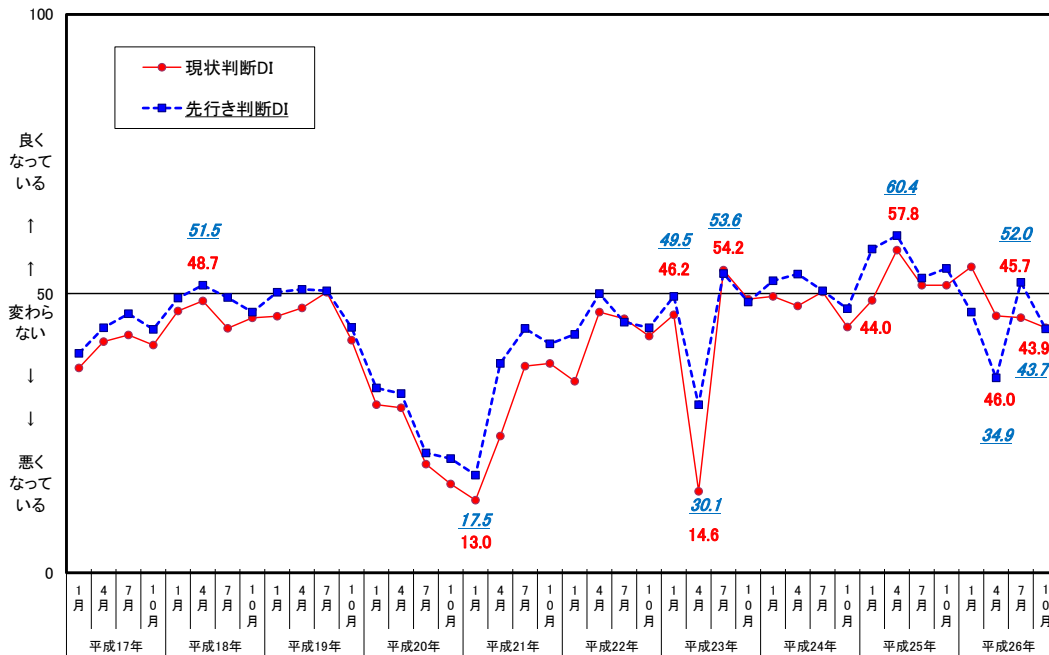
先行き判断DIは、消費税増税による影響のほか、物価上昇や燃料費負担が懸念されることから、前期比8.3ポイント減少の43.7となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、前期調査と比べて1.8ポイント減少の43.9となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

3カ月後の景気先行き判断DIは、前期調査と比べて8.3ポイント減少の43.7となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

（調査期間 平成26年10月1日～10月14日 回答率 99%）

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動向 前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント減少、「やや良くなっている」が横ばい、「変わらない」が1.0ポイント減少、「やや悪くなっている」が1.0ポイント減少、「悪くなっている」が3.1ポイント増加したことにより、全体では1.8ポイント減少の43.9となり、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

判断理由では、入場者数や宿泊人数が増加しているという声や高額商品が伸びているという声の一部にあったものの、消費税増税後の来店客数、客単価、平均単価、買上点数が減少し、売上が伸びていないという声が多くあったほか、冷夏等の天候不順による影響、円安による輸入関連材料、石油関連商品の値上がりの影響をあげる声もあった。

地区別では、前期調査と比べて、津軽地区で増加し、東青、県南、下北地区で減少した。全地区で景気の横ばいを示す50を下回った。

● 3カ月後の景気先行き判断

動向 前期調査と比べると、「良くなる」が横ばい、「やや良くなる」が14.2ポイント減少、「変わらない」が1.0ポイント増加、「やや悪くなる」が7.1ポイント増加、「悪くなる」が6.1ポイント増加したことにより、全体では8.3ポイント減少の43.7となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

判断理由では、忘年会・冬のボーナスなど年末の動きに期待する声や、次の消費税増税前の需要を期待する声があったものの、生活用品や原材料の値上がり、物価上昇による消費低下を懸念する声や、冬に向けて灯油代等燃料費の負担が大きくなり、消費は好転しないという声が多くあった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区で減少した。東青地区では、2期連続で景気の横ばいを示す50を上回ったものの、その他の地区では50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

● 3カ月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎ いくら生産しても追いつかないような受注が入っているため。(電気機械製造=津軽)
- 今年度上半期の有料入場者数は前年同月比で6か月連続の増。(観光名所等=東青)
- 平日、休日関係なくお客様の数は去年に比べて全然違うと思うから。県外からのお客様も多いので。(観光名所等=県南)
- 高額商品が伸びている。(家電量販店=県南)
- 売上、客数がのびていない。(パチンコ=津軽)
- 消費税増税に伴う駆け込み需要の後の反動減からなかなか戻らない。冷夏による消費活動減も影響。(広告・デザイン=東青)
- △ 日中、夜間に限らず車両(車)の動きが少なくなっています。特に燃料の価格の上昇や、夜は特に街に人の姿が見えないです。(タクシー=東青)
- △ 来店客数の減少。客単価、買上点数、平均単価がダウン。(スーパー=東青)
- △ バス料金の大幅値上がりに依る遠距離バスの激減、異常天候。(観光名所等=津軽)
- △ 天候不順、天災(火山噴火)等、全国的に暗い話題が多い。(一般小売店=県南)
- △ 小売業全体としての売上が低下している為。また、単価に対する反応も非常にシビアになっており、無駄な買い物はしないという傾向が強い。(スーパー=県南)
- △ 来店数減、客単価減です。(一般小売店=下北)
- △ 昨年度に比較して工事量が少ないです。(建設=東青)
- △ 円安による輸入関連の材料、石油関連商品の値上がりが響いていて消費動向が落ち込んでいる。(新聞社求人広告=津軽)
- × イベントでの集客が過去2年間よりもかなり低下している。(住宅建設販売=東青)
- × お客様の来店数が減った。客単価も悪くなった。(レストラン=県南)
- × 売上減、お客様の単価ダウン。(スーパー=下北)

● 3カ月後の景気の先行き判断理由

- ◎ メニューもお客さんに合わせて満足していただけるように変更したので。(一般飲食店=東青)
- これからの観光シーズン、また忘年会に多少なりと期待したいです。(スナック=東青)
- やはり冬のボーナス支給後は消費が増えると思う。(観光型ホテル・旅館=津軽)
- 消費税の増税しだいで、いくらか駆け込みは期待したいが、これがなければ回復する気がしない。(住宅建設販売=東青)
- 年末なので期待はしたいと思うが。(レストラン=東青)
- あまり変わらない中、年末にかけて少しは人も出てくるのではないのでしょうか。(スナック=津軽)
- 増税の影響も薄らいできつつあるが、ここにきて食品等メーカー値上げが水を差すかたち。(卸売業=県南)
- 食品等他の物の値上がりは続いているので。(観光名所等=県南)
- 冬に向けて燃料代等負担が大きくなり、消費は好転しないと思う。(新聞社求人広告=東青)
- △ 物価が少しずつ上昇していることが消費低下を招くように思える。(美容院=東青)
- △ これから冬に向けて灯油代等経費のかかる事が多い。(パチンコ=津軽)
- △ ローカルは、円安に弱く、更に物価上昇があるだろうと予測される。その為出費はおのずと控えるだろうし、外食回数も減る。(一般飲食店=県南)
- △ 円安による生活用品の値上がりや原材料の値上がり。(広告・デザイン=東青)
- △ 冬に向かっていろいろ物入りなのに物価が上昇してきている。(食料品製造=津軽)
- △ 円安に伴う、諸物価の値上がりは食料品中心に予定されているが、賃金の引き上げ等がなされないだろうから。(建設=県南)
- × 米価の下落、りんごの収穫量の多さによる値段の下落が予想され、農業従事者の収入減が見込まれる。(旅行代理店=津軽)
- × 灯油代等燃料費の出費が増えるため。(コンビニ=県南)

記号の意味: ◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料: 県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」